

2015年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2016年1月12日（火）18時00分～19時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、荘雄一朗、辻信明、野崎信行、安富真理子、渡辺真也、渡辺裕一<以上8名、敬称略、五十音順>
- 出席職員：丸木福祉活動推進課長、中澤ボランティア・市民活動センター係主任、嶋田主事、長山コーディネーター

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2015年11～12月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2015年11月～12月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2015年11～12月)
- 資料 4：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（1～2月）
- 資料 5：2015年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 6：市区町村ボランティア・市民活動センターのめざすもの
- 資料別冊：2015年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>
- 配布資料1：市区町村社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 強化方策 2015
- 配布資料2：西東京市社会福祉協議会 改革のためのアクションプラン

1. 報 告 事 項

(1). 2015年度11月～12月西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

○事務局より資料1～4に基づき、2015年11月から2015年12月末までの業務について報告を行う。

○以下、質疑、協議が行われる。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委員：施設見学会の反響はどうだったか。

事務局：参加者に気づいた点を聞いたところ、実際に活動している現場を見ることができて良かったという声をいただいている。また、実際に活動をはじめた人もいる。

委員：参加者は何人だったのか。また、実際に活動をはじめた人は何人か。

事務局：10人の申込みがあり、7人の参加であった。また活動をはじめた人の人数は現時点では2人であるが、さらに1名が検討中である。

委員長：介護の日イベントでは、どのようなことが行われたのか。

事務局：アスタセンターコートで行われた同イベントにおいて、「ふれまち助け合い活動」「ほっとネットステーション」「西東京ボランティア・市民活動センター」の活動について広報を行った。

委員長：資料3の中で、「見つからず」「声掛け中断」とあるのはどういうことか。

事務局：「声掛け中断」については、依頼者の都合によるものであり、「見つからず」は声掛けをしたが見つからなかったものである。

2. 審議事項

(1). 2015年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

- 2015年度第4回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

3. 協議事項

(1). 今後の方向性について

○事務局より資料6について説明を行う。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委員長：資料6のタイトルが「市区町村社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターのめざすもの」となっているが、西東京市社会福祉協議会のボランティア・市民活動センターがめざすものというように読み替えて良いのか。

事務局：元の資料である「市区町村社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター強化方策2015」で用いられている表記をそのまま使っている。当センターの目指すべきものとするということについては、委員の皆様からご意見をいただく中で考えていきたい。

委員長：前回の委員会において、事業の課題と事業実施の工夫が資料として示されたが、それらを整理、解決するために活用できる資料としての今回の資料提出であると理解したがそれで良いか。

事務局：そのとおりである。

委員長：資料を作成していて、思うことがあれば聞かせてほしい。

事務局：多者協働の必要性を強く感じた。またボリュームがあるので、5年間の中期プランをつくる中で、計画立てて行っていく必要を感じた。

委員長：多様な地域課題の解決のため、社協は多くの期待をされている。また、実際に具体的な動きも行っているが、ボラセンがどの部分を担い、プラットフォームを作り、どのように引っ張っていくことができるのかなど、どこに視点を置いていくかがポイントとなる。

事務局：社協内部の連携も必要であると思う。また、プラットフォームの中核になるなど、社協だからこそできることがあると思っている。いろいろな団体と力を合わせて、地域の課題解決に向けて取り組んでいきたい。

委員長：資料6に記載されている2つの目的が重点を置かなければならないことではないか。

委員：強化方策2015の41ページに記載されているプラットフォームの図について、ボラセンが入った形で具体的に西東京市版を作ると形が見えるようになると思う。また、社協内での協働を考えた際のボラセンの現在の位置付けを確認した後、今後の動きを考えられると良い。

委員長：少し前のものであるが包括と社協（ふれまち）の連携についての資料を見たが、綿密に検討を行っていないと、なかなかつながりができないように感じている。ボラセンにとって必要となるつながりを協働により作っていく必要を感じる。

委員：ニーズを抱えた人を救うための制度やサービスがないときに頼りにできるのはボラセンなの

かもしれない。ボラセンに相談できて一緒に考えてくれたら、とても心強いのではないか。ふれまちとの関係を見たとき、社協全体の機能をどのようにしていくのかも考えていく必要がある。もしかしたら現状は、相談がふれまちにいつてしまっていたりするのかもしれないが、プラットフォームを作っていく際の社協内協働についても運営委員会から提案するなどして、位置づけやあり方を考えていく必要があるのではないか。

委員：ボラセンの動きがわからないということ聞いたことがある。各々の業務を共有するような場はあるのか。

事務局：従来ボラセンがやってきたことを他の部署がやり始めており、なおかつ新たに始めた部署の動きが市民に浸透して、市民からの信頼を得ている。これが現在のボラセンを取り巻く状況であり、危機的な状況であると思っている。このような中で、ボラセンがこれから何をしなければならぬかという点については、強化方策2015に書かれていることも大切であるが、社協の中でボラセンは何をするのかということをお我々がしっかりと考えなくてはならないと思っている。ふれまちやほっとネットは、現実には起きている問題に対処しているが、その部分は任せて、これから起こりうるであろう部分をいち早く察知して対処していくことがボラセンの役割なんだろうと今は思っている。また、コーディネートのあり方も考えなくてはならないと思う。現実には依頼があった際、ボラセンに登録している人を紹介していくという需給調整だけで良いのかという点については、これからの西東京市のボラセンとして考えなくてはならない。需給調整をボラセンがやらなくても良いようにしていくことも、ある意味これからのニーズに答えていくことになる。そのことをコーディネートと福祉教育（小中学生だけではなく大人も含めた社会教育）の取り組みとして、どのようにからめてやっていくのかという点が今のボラセンに求められているところではないか。内部での部署連携については、個別にあると思っている。またボラセンが何をやっているのかということについては、計画書等で示されており、個別の連携の案件についても存在する。

委員：ボラセン、ほっとネット、ふれまちの境目がはっきりとしておらずよくわからないため、依頼元を基準にして、そこの活動であると判断している。それぞれの活動については重なる部分が多く、具体的な活動についてはわからない点があるのではないかとと思っている。取り組もうとしていることはごもつともなことであるが、実際にやるとなると並大抵のことではないと感じる。的を絞ってできることからやっていった方が良いのではないかとと思っている。何をやっているのかがわからないとボランティアをやろうという気持ちにならないと思う。達成感を感じることも大切なことである。

委員：市民活動支援センターはコーディネート機関としての役割が大きいと思う。例えば子育て支援に関心がある方に対してファミリーサポートセンターの活動を紹介したり、一人暮らしの高齢者の支援に興味のある方に対して、ふれまちの活動を紹介したりというコーディネートを果たしているのかという課題があり、またボラセンとしての活動とは何なのかという課題がある。直接のコーディネートと組織へのコーディネートがある中で、わかりにくい点があるのではないかと感じている。

事務局：社協の職員一人一人がコーディネート力をもって、日々の業務に当たることが理想であり、それが社協である。先ほどの話にあるように、個々の課題に対して適切なサービスを選択し対応しているのが地域福祉コーディネーターであるため、市民が地域福祉コーディネーター

を頼るという流れができています。以前はボラセンがそのための窓口であり、ボラセンに行けば困りごとを解決することができるという流れになっていましたが、なかなか地域に出ることができないという状況があり、そのため地域福祉コーディネーター（コミュニティーソーシャルワーカー）を専門的に配置する流れになってきた。市民からすればどこであろうが問題が解決されれば良いわけであり、社協としては問題解決のための窓口を幅広く持っておき、一人一人の職員がきちんとコーディネートをする組織であれば良いと思う。

そうした時にボラセンが何を専門的な機能として持つのかということが問われているのだと思う。

委員長：ゆめこらぼとの関係について、ボラセンは福祉に特化していると聞いているが、他にもゆめこらぼは団体登録を行っており、ボラセンは個人登録をしている点がある。ボランティアということの成り立ちからきているのだと思うが、こういう区別が今の時代に合っているのかという点もある。大きな問題に対しては、個人ボランティアが行って解決できるものではないと思うので組織的な対応が必要だと思う。ボラセンとゆめこらぼの住み分けは、はっきりしなくなっていると思うし、もっと協働して取り組むべきだと思う。福祉とまちづくりは無関係ではない。役割分担はあっても良いと思うがさらに協働する必要があると感じる。

委員：やらなくてはならないことの幅が広すぎるので、高齢者、子ども、障がい者のいずれかの分野に特化するということではなく、何か一つに集中して取り組むことが必要であると感じる。

委員長：やることがたくさん書かれているが、やることで何を求めているかが大切である。コーディネートとは需給調整だけではなく、もっと広いものである。夏体験ボランティアはひとつの柱であり、将来の人材育成という点で他の事業では取り組んでいないことである。災害ボランティアについても行政とつながりながらうまくやっているのだから、これもこのまま大切にしていきたい。

委員：コーディネート機能の強化、子どもだけを対象とするのではない福祉教育の取り組み、プラットフォームづくりの3点が大切なのではないかと思う。このことにより今までやってきたことを再編することもできると思うし、またスクラップする事業も出てくるかもしれない。この3つの中のいずれかに力を注ぐということが求められているということなのかもしれない。

委員：漠然とプラットフォームづくりに重点を置くということではなく、プラットフォームづくりを進めるためにやるべき具体的ないくつかの取り組みの中から1～2つを絞り込んで取り組む必要を感じている。そうしないと広すぎてどれをやれば良いのかわからなくなってしまう。

委員：言っていることは理想的で良いと思うし、福祉以外にも諸々のものを取り込んでやることは必要かつ大切なことだと思うが、あまりにも広いと思う。プラットフォームとは言えないが、ボラセンと個人、ボラセンとボランティア団体との個々のつながりがあるので、それらをプラットフォームとする中で相談の多い部分についての弱い点を探り、その弱い部分を強化するなどしていかないと、相談に対応できない状況が続く、具体化していかないとと思う。

委員：相談先がわからない、相談しても満足のでられる回答が返ってこないなど、市民から見たらわからない部分が多々ある。市民を含め関係者が同じ共通理解を得ることができるようなわかりやすい西東京市独自の大きな柱があっても良いと思う。市民がわかるような看板となるようなものがある、具体的なものとして互いに理解してもらえるような独自のカラーを出

していけると良い。

委員：ほっとネット推進員、ふれまち、登録ボランティアなど、一人で複数の活動をしている人がいる。その人たちにとってみれば、わかりにくい部分がある。

委員：総合学習の件で校長会に出で話をしてはどうかとの話があったが、そういうことをやるのがプラットホームづくりの一つになってくると思う。それをやるべきではないか。

事務局：先ほど話に合った運営委員会の位置付けについてであるが、前回の委員会の際には、その場その場で、必ずしもすべてを決めていくというようにはならないが、継続的に検討していつて、例えば半年後には決まるということがあるという意味合いで申し上げた。従って、すべてのことをこの委員会の場で決めるものではないと言ったわけではないので、誤解のないようをお願いしたい。

委員：委員会の設置規則などを見たが、何かを決定する委員会ではないと思った。

事務局：運営委員会の一番大きな意味合いは、市民の代表である委員の皆様より意見をいただいて、ボラセンと一緒に運営していくということにあると思う。職員の視点だけで運営すると偏りが出てしまうこともあるかもしれないので、一緒に考えて取り組んでいただくことが大切である。

委員：ボランティアと名前がついていなくても、まちづくりなどの活動をしている人はたくさんおり、ボラセンを通していないからといって、できていないというわけではない。ボランティア活動という名目がついているわけではないが、夜回りなど顔と顔を合わせるような活動をやっていくことも大切である。気づいたらボランティア活動をしていたといったようになるのと自然で良い。例えば雪かき隊のようなものがあり、ボラセンが道具の貸し出しなどをすることがあっても良いのではないか。

委員：今、ボラセンが困っていることと目指していることがよくわからない。災害の切り口から市内でできる（人のつながりを作る）ことをやっているが、災害時のことだけを考えてもなかなかうまくいかないと思っている。過日公民館の主催行事の中で、市内の避難所運営協議会のメンバーが集まる機会があったが、このような出会いの場を大切にして、これからも人のつながりを作っていきたいと思っている。小さな災害である大雪の際などに機能する組織であれば、大災害の際にも機能するはずである。このような身近なところから仕掛けていき、ボラセンを中心とした輪が広がっていったら一つの事業になるし、西東京市の特色が出るのではないか。どのようなきっかけから始まったとしても、コアになる部分をきちんとやり遂げることが大切だと思う。

委員：昨年、学校をきれいにするボランティア隊を母親を中心に組織し、今年は父親を対象としたボランティア隊を組織した。両方とも30名程の人がおり、声を掛けると10名程度の人に来て手伝ってくれるようになり、行事の手伝いなどもしてくれている。人数が1割程度であることから、新しい組織に入ることにはもしかしたら固いイメージがあるのかもしれないと感じているが、例えば大雪の際などにも、一斉メールなどで連絡をすれば、協力を得られるかもしれないと思っている。具体的なことをやることで、話が進むのではないか。

委員長：短い時間ではあったが、良い意見交換ができたと思う。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 以下の内容を確認した。
 - 開催日時：平成28年3月8日（火）18時30分より20時30分まで
 - 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 以上をもって、2015年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。